

| 授 業 科 目 名 | 発達心理学Ⅱ | 授 業 形 態 | 講 義 |
|--------------|--|---------|--------|
| | | 配 当 学 期 | 1年（後期） |
| 担 当 教 員 名 | 藤谷 智子 | 単 位 数 | 1単位 |
| | | 時 間 数 | 30時間 |
| 授業概要 学習目標 | <p>〔授業概要〕</p> <p>幼児期から老年期に至る各発達時期の特徴と発達課題について学習する。 発達のアセスメントと発達への援助についての理解を深める。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達理論をもとに、各発達時期の特徴を説明することができる。 ・青年期の課題を自覚し、自分の生き方を考えることができる。 ・発達のアセスメントの仕方を理解し、適切な援助を考えることができる。 | | |
| 授業回数 | 授業内容 | | |
| 第 1 回 | I. 幼児期の発達についての確認（発達心理学Ⅰの復習） | | |
| 第 2 回 | II. 幼児期から児童期にかけての発達と発達上の問題 | | |
| 第 3 回 | III. 児童期の発達（1）：児童期の発達と生活、認知の発達と学習上の問題 | | |
| 第 4 回 | 児童期の発達（2）：自己形成と社会性の発達、学校教育と発達 | | |
| 第 5 回 | IV. 子どもの発達のアセスメント（1）：アセスメントの目的、様々なテストとテストバッテリー | | |
| 第 6 回 | 子どもの発達のアセスメント（2）：WISC-IVの実習（1） | | |
| 第 7 回 | 子どもの発達のアセスメント（3）：WISC-IVの実習（2） | | |
| 第 8 回 | 子どもの発達のアセスメント（4）：WISC-IVの実習（3） | | |
| 第 9 回 | 子どもの発達のアセスメント（5）：WISC-IVの利用 | | |
| 第 10 回 | V. 青年期の発達（1）：認知の発達、思春期 | | |
| 第 11 回 | 青年期の発達（2）：アイデンティティの達成とアイデンティティ・ステータス | | |
| 第 12 回 | VI. 成人期の発達（1）：親密性の獲得、恋愛と結婚 | | |
| 第 13 回 | 成人期の発達（2）：親になることと親をすること、アイデンティティの見直し、世代性の獲得 | | |
| 第 14 回 | VII. 老年期の発達：老年期の知的機能、エイジングとパーソナリティ、統合性 | | |
| 第 15 回 | VIII. 発達への援助を考える | | |
| 評価方法 | 学期末試験（80%）、授業中に提出するミニレポート（20%）で評価する。 | | |
| 教科書 参考図書 | <p>〔教科書〕 使用しない</p> <p>〔参考図書〕 授業中、適宜紹介する</p> | | |
| 履修上の 留意点 | 他の授業で学ぶ心理学に関する内容と関連づけながら、発達心理学における重要な用語についてしっかりと理解すること。 | | |
| メッセージ | 授業中に紹介する参考図書も読んで、幅広い知識と多様な考え方を積極的に身につけること、そしてそれらをもとに自分なりの考えを持つことを期待します。 | | |